

参考文献—補助動詞

Gang Miseon

〈書籍〉

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 井上優 (2001) 「現代日本語の「タ」—主節末の「タ」の意味をめぐって」つくば言語フォーラム (編) 『「た」の言語学』ひつじ書房
- 井上優・生越直樹・木村英樹 (2002) 「テンス・アスペクトの比較対照 日本語・朝鮮語・中国語」シリーズ言語科学 4 『対照言語学』東京大学出版会
- 江田すみれ (1997) 「動詞「いく」「くる」の意味と用法について」『日本語教育論集—小出詞子先生退職記念—』凡人社
- 大江三郎 (1975) 『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂
- 生越直樹 (1997) 「朝鮮語と日本語の過去形の使い方について—結果状態形との関係を中心に—」『日本語と外国語との対照研究IV—日本語と朝鮮語—下巻、研究論文編』国立国語研究所 くろしお出版
- 海保博之・柏崎秀子 (2002) 『日本語教育のための心理学』新曜社
- 神尾昭雄 (1990) 『続・情報のなわ張り理論』大修館
- 金水 敏・工藤真由美・沼田善子 (2000) 「時の表現」『時・否定と取り立て』岩波書店
- 金田一春彦 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- 国広哲也 (1982) 『発想と表現』日英語比較講座 大修館
- 久野 暉 (1978) 『談話の文法』大修館書店
- 久野 暉 (1983) 『新日本文法研究』大修館書店
- 国立国語研究所 (1983) 『談話の研究と教育 I、日本語教育指導参考書 11』大蔵省印刷局
- 高橋太郎 (2002) 「「してくる」の意味・用法」『日本語と中国語のアスペクト日中対照言語学』白帝社
- 田中真理 (2001) 「ディスコースと日本語教育」『認知文論、日本語教育学シリーズ第 5 巻』おうふう出版
- 田中真理 (2004) 「日本語の「視点」の習得：英語、韓国語、中国語、インドネシア語、

マレー語話者を対象に」南雅彦・浅野真紀子（編）『言語学と日本語教育Ⅲ』くろしお出版

寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味第Ⅱ巻』くろしお出版

富田隆行（1997）「「～てくる」と「～ていく」」『続・基礎表現 50 とその考え方』凡人社

仁田義雄（1991）「ヴォイス的表現と自己制御性」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版

野田尚史（2004）『新しい日本語教育文法—コミュニケーション能力を高めるために—』くろしお出版

野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子（2001）『日本語学習者の文法習得』大修館

益岡隆志（1997）『複文』くろしお出版

水谷信子（1985）『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版

宮島達夫（1972）『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

森田良行（1988）「動作・状態を表す言い方」『日本語の類意表現』創拓社

森田良行・松本正恵（1989）『日本語表現文法』アルク

森田良行（1994）「移動動詞「行く」「来る」の意味」『動詞の意味論的文法研究』明治書院

森田良行（1995）『日本語の視点—ことばを作る日本人の発想』創拓社

森山卓郎（1988）「アスペクトの類型」「場所表現の類型—場所・方向・移動—」『日本語動詞述語文の研究』明治書院

山下秀雄（1979）『日本のことばとところ』講談社

山梨正明（1988）『比喩と理解』東京大学出版会

山梨正明（1993）「認知言語学—ことばと心のプロセス」『日本語要説』ひつじ書房

山梨正明（1995）『認知文法論』ひつじ書房

〈辞典・辞書〉

池上嘉彦（1989）「日本語表現論」『日本文法小事典』大修館

井上和子（1989）『日本文法小事典』大修館書店

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

〈論文〉

- 石丸晶子 (1985) 「文章における視点」『日本語学』4-12 明治書院
- 李徳泳 (1990) 「アスペクトにおける日・韓両国言語の対照研究」『日本語教育』72
日本語教育学会
- 今井文男 (1985) 「私の視点論」『日本語学』4-12 明治書院
- 今仁生美 (1990) 「V テイクと V テクルについて」『日本語学』9-5 明治書院
- 猪崎保子 (1993) 「日本語学習者の作文にみられる ヴォイス・アスペクト・ムードの習得」
『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』403 東京外国語大学留
学生日本語教育センター
- 宇佐美まゆみ (1999) 「視点としての日本語教育学」『言語』28 卷 4 号 明治書院
- 梅田博之 (1980) 「朝鮮語を母語とする学習者のための日本語教材作成上の問題点」
『日本語教育』40 号 日本語教育学会
- 奥津敬一郎 (1992) 「日本語の受身文と視点」『日本語学』8-11 明治書院
- 生越直樹 (1991) 「韓国人日本語学習者のテンス・アスペクトに関する誤用について」鈴木
重幸他 (編) 『現代日本語テンス・アスペクト・ヴォイスについての総合的
研究』pp.41-89 横浜国立大学
- 大塚純子 (1995) 「中上級日本語学習者の視点表現の発達について一立場志向文を中心に
一」『言語文化と日本語教育』第 9 号 水谷信子先生退官記念号 お茶の
水女子大学日本言語文化学会
- 神尾昭雄 (1985) 「談話における視点」『日本語学』4-12 明治書院
- 河先俊子 (1994) 「誤用分析による韓国人学習者のテンス・アスペクトの習得過程の考察」
『平成 6 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.76-79 日本語教育学
会
- 管野裕臣 (1986) 「朝鮮語のテンスとアスペクト」『学習院大学言語研究所紀要』9 号
学習院大学言語研究所
- 川口義一 (1996) 「日本語指導の文脈化『日本語教育・異文化コミュニケーション』北海道
国際交流センター
- 川口義一 (1999) 「文型記述の教材化—『教師と学習者のための日本語文型辞典』の「ナラ」
記述の文脈化— (『日本語研究と日本語教育』所載) 明治書院
- 金慶珠 (2000) 「談話構成における母語話者と学習者の視点—日韓両言語における主語と動

- 詞の用い方を中心に一』『日本語教育』109号 日本語教育学会
- 菊地康人 (2000) 「良質の記述的研究の重要性—日本語研究界と日本語教育界とにあつて思うこと—」『国語学』200集
- 金水 敏 (1992) 「場面と視点—受身文を中心に—」『日本語学』8-11 明治書院
- 許 夏珮 (2000) 「自然発話における日本語学習者による「—ている」の習得研究—OPIデータの分析結果から—」『日本語教育』104号 日本語教育学会
- 工藤真由美 (1996) 「否定のアスペクト・テンス体系とディスコース」『ことばの科学7』言語学研究会編
- 工藤 浩 (1985) 「日本語の文の時間表現」『言語生活』403 国立国語研究所
- 久保義織 (2000) 「内的時間構成のさまざまな見方」『日本語学』明治書院
- 黒野敦子 (1995) 「初級日本語学習者におけるテイルの習得について」『日本語教育』87号 日本語教育学会
- 小泉保 (1988) 「空間と時間における指示の体系」『言語研究』94号 1-24 日本言語学会
- 小宮千鶴子 (1993) 「書くこと」岡崎敏雄他編『ケーススタディ日本語教育』桜楓社
- 小矢野哲夫 (1982) 「国語学におけるテンス・アスペクト観の変遷」『日本語教育』12号 日本語教育学会
- 坂本・康 (2000) 「中上級日本語学習者の「視点」の問題を探る—ストーリーのある漫画の描写を通して—」『平成12年度日本語教育学会春季大会予稿集』45-50 日本語教育学会
- 坂本・康 (2002) 「日本語母語話者の視点の実態を探る—視座の統一度にある文章に対する日本語母語話者の判断調査と共に—」『平成14年度日本語教育学会秋季大会予稿集』142-147 日本語教育学会
- 坂本勝信・康 (2004) 「英語母語話者の視点の実態を探る」『平成16年度日本語教育学会春季大会予稿集』239-244 日本語教育学会
- 茂呂雄二 (1985) 「児童の作文と視点」『日本語学』4-12 明治書院
- 鈴木情一 (1988) 「視点の言語心理的研究—共感度操作によるダイクシス再編成の喚起—」『読書科学』第4号 日本読書学会
- 鈴木情一 (1992) 「視点の心理」『日本語学』8-11 明治書院
- 須田義治 (1995) 「「してくる」と「していく」」『日本語の研究と教育—窪田富男教授退官記念論集—窪田富男教授退官記念論文集編集世話人編』専門教育出版

- 田窪行則 (1987) 「誤用分析 1~7」『日本語学』1987-4~10 明治書院
- 田窪行則 (1987) 「統語構造と文脈情報」『日本語学』6-5 明治書院
- 田窪行則 (1992) 「言語行動と視点—人称詞を中心に—」『日本語学』8-11 明治書院
- 田中真理 (1996) 「視点・ヴォイスの習得—文生成テストにおける横断的研究および縦断的研究」『日本語教育』88号 104-116 日本語教育学会
- 田代ひとみ (1995) 「中上級日本語学習者の文章表現の問題点—不自然さ・わかりにくさの原因をさぐる—」『日本語教育』85号 日本語教育学会
- 塚本秀樹 (1990) 「日朝対照研究と日本語教育」『日本語教育』72号 日本語教育学会
- 中村 明 (1987) 「言語表現における視点の問題」『文学研究科紀要』33 早稲田大学大学院文学研究科
- 野田尚史 (1999) 「日本語教育の影響をうけた日本語文法」『言語』第28巻第4号 大修館
- 浜之上幸 (1991) 「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』138輯 朝鮮学会
- 浜之上幸 (1992) 「アスペクトとテキストの時間的構成について」—時間的局所限定性・タクシス性の観点から—『朝鮮学報』144輯 朝鮮学会
- 浜之上幸 (1992) 「現代朝鮮語の「結果相」=状態パーフェクト—動作パーフェクトとの対比を中心に—」『朝鮮学報』140輯 朝鮮学会
- 福田由紀 (1992) 「物語理解と視点」『日本語学』8-11 明治書院
- 益岡隆志 (1992) 「表現の主観性と視点」『日本語学』8-11 明治書院
- 松木正恵 (1992) 「『見ること』と文法研究」『日本語学』11-9 明治書院
- 松木正恵 (1993) 「文末表現と視点」『早稲田大学日本語教育研究センター紀要』早稲田大学日本語教育研究センター
- 松田文子 (2000) 「複合動詞の意味理解方略の実態と習得困難点」『言語文化と日本語教育』第20号 お茶の水女子大学日本言語文化学会
- 水谷信子 (1993) 「非用と談話の展開」『日本語学』12-9 明治書院
- 宮崎清孝 (1985) 「文学の理解と視点—認知心理学の立場から—」『日本語学』4-12 明治書院
- 村田寛 (1997) 「<hayssessta>の研究—現代朝鮮語の時間の表現」『朝鮮学報』165輯 朝鮮学会
- 森山卓郎 (1984) 「アスペクトの意味の決まり方について」『日本語学』3-12 明治書院
- 山田 純 (1985) 「文における視点」『日本語学』4-12 明治書院

- 山田敏弘（2000-2002）「日本語におけるベネファクティブの記述的研究第1回～14回」
『日本語学』第三巻一号、明治書院
- 山本裕子（2000）「「くる」の多義構造「くる」「一てくる」の意味のつながり」－「くる」
「一てくる」移動比喻による派生、迎える立場『日本語教育』105 日
本語教育学会
- 山本裕子（2001）「行為の受け手であることを表す「一てくる」について」『言葉と文化』
名古屋大学大学院
- 山本裕子（2001）「聞き手とベースを共有することを表す「一てくる」「一ていく」につい
て」『日本語教育』110号 日本語教育学会
- 山梨正明（1987）「文脈と言語理解の諸相」『日本語学』6、明治書院
- 尹亭仁（2001）「移動動詞「行く」「来る」の格標示と名詞句の意味特徴－韓国語の「gada」
「oda」との対照の観点から－」『日本語教育』110号 日本語教育学会
- 吉川武時（1982）「日本語教育におけるテンス・アスペクトのあつかい」『日本語教育』12
日本語教育学会
- 若林健一・茂呂雄二（1992）「視点と作文指導－仮想視点の試み－」『日本語学』8-11
明治書院